

宮代町郷土資料館だより

# えんがわ

第30号

## 道仏北遺跡から縄文時代の集落跡発掘される

平成18年12月から平成19年7月まで道仏北遺跡の発掘調査が行われました。

発掘調査の結果、縄文時代早期約7,000年前の住居跡5軒、前期約6,000年前の住居跡13軒、古墳時代約1,700年前の住居跡2軒、縄文時代の炉穴7基、縄文時代から古墳時代の土坑約180基余りが発掘されています。

なお、今回の調査区の北側隣接地は、平成15年度に（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団により、縄文時代前期の住居跡5軒を初め、土坑等が発掘されています。

### 立地

今回の発掘調査地点は、大宮台地の東側縁辺部にあり、中川低地をはさんで下総台地と対峙する、標高7.5メートルほどの台地上に位置します。古利根川の右岸の低い台地上に遺跡があり、河川の影響により形成された自然堤防の粘土質の土が全体を覆い、以下の黒色土やローム層も非常に硬い土となっています。

台地は、須賀地内から概ね古利根川に沿って続くもので、道仏地内がその先端となっています。北から南へ張り出した舌状をした台地で、その先端部付近に遺跡があります。付近には、



住居跡の調査風景

谷を隔て南側に古墳時代後期約1,500～1,300年前の集落の一部が発掘された道仏遺跡があります。また、道仏北遺跡のある台地を北上すると身代遺跡、須賀遺跡などがあり、いずれも自然堤防下標高7～7.5mにあり、縄文時代前期、後期の遺物が出土しています。

今回の調査では、縄文時代前期の集落が中心となっていますが、奥行き、幅とも約70m程の台地上に、概ね3時期の住居跡などが約20軒まとまって発掘されたのは町内では初めての事です。

## 縄文時代のムラ

### 最古の遺物

今回の道仏北遺跡の調査では、最も古い遺物は、縄文時代早期初頭約9,000年前の土器が出土しています。



道仏北遺跡  
最古の土器

### 7千年前の住居跡

7,000年前というと、温暖化により海が埼玉県内では川口辺りまで入り込んできた時期です。

道仏北遺跡に住居が造られるようになったのは、この頃のことです。住居跡は、4軒発掘されました。四角い形をしたものでおよそ5m四方のものや、3×4mほどのものです。土坑からは、大型の土器も出土しています。



7,000年前の住居跡（中に炉穴があります）



土坑内の土器の出土状況

### 6千年前の住居跡

6,000年前、今では信じられないかも知れませんが、周囲の水田などの低地はほとんど海でした。群馬県付近まで奥深く海が入り込んでいたと想像されています。

この頃の住居跡は13軒ほどです。最近、国の史跡となった蓮田市黒浜貝塚と同じ頃の住居跡が数軒発掘されています。また、その前後の時期の住居跡も数軒発掘されました。



黒浜式期の住居跡



諸磯式期の住居跡

## 古墳時代のムラ

1,600年程前、埼玉の稲荷山古墳が造られたころでしょうか、あるいは、もう少し前、その頃の住居跡が2軒発掘されました。勾玉も出土しました。



住居跡と勾玉



# 山崎遺跡で縄文時代の焼失住居や古墳時代の住居跡を発掘

4月17日から6月12日にかけて県選定重要遺跡の山崎遺跡で発掘調査が行われました。今回の発掘調査は昨年12月から2月にかけて実施された調査区の隣接地点です。

発掘調査の結果、約3,500年前の縄文時代後期の住居跡が2軒、約1,400年前の古墳時代後期の住居跡が1軒発掘されました。特に縄文時代の2軒の住居跡は、火事にあった住居で、当時生活していた道具が火事の状態でそのまま埋もれていました。この他、住居の柱などの建築部材も炭化したまま残っていました。



第2号住居跡建築部材

縄文時代後期（約3,500年前）の第2号住居跡からは、炭化した建築部材の他、多量の焼土が住居跡全体から出土しました。道具としては多数の土器のほか、ヤジリや石斧（いしおの）、石皿、砥石、急須型の土器などが出土しています。この住居跡は、石製品が多数出土しており、祭祀的な住居跡の可能性があり、集落の中心的な住居跡と推定されます。この住居跡の出入り口部は西側の斜面部にあったようで、特徴的な柱穴が検出されています。



第2号住居跡（縄文時代の住居跡）手前が出入り口

縄文時代後期（約3,500年前）の第3号住居跡からも、炭化した建築部材などが出土しています。この住居からは第2号住居跡ほど多くの炭化材や焼土の出土はありませんでしたが、柱穴を繋ぐように炭化材が出土しています。この住居跡の炉跡は中央部にあり、炉跡に近接して伏甕が埋められていました。この伏甕の底部には穴が開けられており、

亡くなった乳児や胎盤が埋められていたと推定されます。



第3号住居跡伏甕

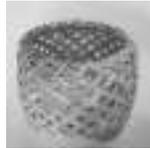
古墳時代後期（約1,400年前）の住居跡は、東壁にカマドのある住居跡で、カマドの袖部分には補強物として土器が貼り付けられていました。カマドからは多量の焼土や炭化材が出土しています。主な柱は4本あり、内3本が非常に深い穴でした。西側壁付近には小さな柱穴が3本あり、出入り口部の梯子（はしご）等の可能性があります。この住居跡からは壁に沿って浅い溝が検出されています。この付近からは板材が焼けたと推定される炭化物や焼土が出土していますので、竪穴住居の壁を保護する板材が並べられていたと推定されます。

今回の発掘調査では、このように縄文時代や古墳時代の住居跡が3軒も確認され大きな成果がありました。これからも宮代町教育委員会は、開発される予定地で発掘調査や試掘調査を行い、先人が現代に残してくれた貴重な文化遺産を記録保存し、宮代町の歴史を解明していきたいと考えています。



第4号住居跡（古墳時代の住居跡）奥がカマド

# かごづくり体験教室



去る6月16・17日の2日間にわたって、かごづくり体験教室が開催されました。講師は、現在では町内唯一となった、かご作り職人の後藤政さんです。

初日の16日は、後藤先生が下組みと、底から側面を立ち上げたところまで準備しておいてくださった教材を使い、側面を編むことを体験しました。先生がとても簡単そうに編んでいくのを見ながら実際に編んでみると、思うようにかごの目が揃わず悪戦苦闘。先生に直していただきながらなんとか形を整えて1日目の作業を終えました。



初日・・・かごの側面を編む



2日目・・・かごの縁<sup>へり</sup>をつくり完成。

2日目の17日は、前日に編み上げたかごの縁を作るところからはじめました。後藤先生がを4等分に裂き、さらさらにしたものをゆっくりとかごの内側に曲げていくと、あつという間に縁が形良く作られていきます。簡単そうに見えてもさすが職人芸、自分でやってみると思ったようにまとまってくれず、またまた悪戦苦闘。

縁に、側の部分で作った紐を巻き終われば完成です。

今回で7回目のかごづくり体験教室ですが、初めての方も複数回参加している方も、後藤先生の「職人技」に感心しながら楽しんで参加していただくことができました。

## 資料館日誌抄

- 4月 1日 道仏北遺跡発掘調査 (現在まで)
- 4月 1日 季節展示「ひなまつり」(4月28日まで)
- 4月 1日 企画展「ハレの日の風景」(4月22日まで)
- 4月17日 山崎遺跡発掘調査 (6月12日まで)
- 4月27日 新山遺跡隣接地試掘調査
- 4月28日 企画展「昭和の宮代」(7月8日まで)
- 4月30日 季節展示「五月人形」(6月13日まで)
- 5月23・24日 チャレンジ2days 前原中学校1名
- 6月13・14日 チャレンジ2days 百間中学校3名
- 6月13日 前原遺跡隣接地試掘調査
- 6月13日 関根孝吉家墓地調査
- 6月16・17日 かごづくり体験教室
- 6月26日 宮代町文化財保護委員会
- 6月27日 新山遺跡隣接地試掘調査
- 6月30日 道仏北遺跡現地説明会

## 資料館寄贈者名簿

- 斎藤良吉氏 民具
- 横溝 東氏 民具

宮代町郷土資料館だより えんがわ 30号

発行日 平成19年7月 1日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>

